

タイトル：『汐製菓会社の新作の  
マフィン3』

登場人物

- ・ 汐（30代）…汐製菓会社の社長。奇抜な発想で常に新しい商品を考えている。
- ・ 塩田（30代）…汐の秘書。しっかり者で冷静だが、汐のアイデアに振り回されることが多い。
- ・ 社員たち…汐製菓の社員たち。社長の発想に戸惑いつつも従う。
- ・ 国内外のバイヤー…試食イベントに参加するバイヤー。日本、フランス、アメリカ、中国、イタリアなど各国から集まる。

## 【シーン】汐製菓会社 会議室 | 開発 会議

（広い会議室に汐製菓の社員たちが集まっている。ホワイトボードには「新作マフィン③」の文字が書かれている。汐が満面の笑みで部屋に入ってくる。塩田はすでに席についてメモを取っている）

汐：「さあ、みんな！ 今日新しい挑戦の時間が来たぞ！ 我が汐製菓が次に世界を驚かせる商品は、これだ！」

（汐は手を広げて大きなジェスチャーをし、ホワイトボードの「新作マフィン③」という文字を指差す）

社員A：「社長、前回の『カレー味マフィン』は…少し評判が微妙でしたよね。」

社員A：「確か、甘さと辛さが合わないっていう意見が多かったです。日本だけじゃなく、海外からも…」

塩田：（メモを見ながら）「ええ、特にインドのバイヤーからも『なんでカレーをスイーツに…』ってコメントが…」

汐：（笑顔で）「そう！だからこそ、今回の新作はさらに冒険するぞ！前は冒険が足りなかったんだ。もっと大胆に、もっと面白いこう！」

（社員たちは困惑した表情で顔を見合わせる。塩田は慎重に言葉を選びながら）

塩田：「社長、具体的にはどんな商品を考えているんですか？今度は少し…えっと、万人受けするようなものを…」

汐…（にやりと笑い）「お待たせしました！新作のコンセプトは、大人のためのリッチなマフィン。その名も…『ウオツカ味マフィン』だ！」

（その瞬間、会議室はシーンと静まり返る。

社員たちは一瞬で凍りつき、驚きの顔を見せる。塩田は思わずペンを落とす）

塩田…「ウオツカ味…ですか？あの、強いお酒の…」

社員A…「え、ちょっと待ってください、社長。ウオツカって、まさかあのお酒のウオツカですよ？それをマフィンに？」

汐…（満面の笑みで）「そうだ！お酒とスイーツ、どちらも楽しみたい大人たちに向けた新感覚の商品だ。ウオツカの風味をしっかりと残しながら、甘さとのバランスを取る。これで日本のスイーツ業界に革命を起こすんだ！」

（社員たちは目を見開き、誰もがどう反応しているのかわからない表情。塩田は深く息を吐きながら）

塩田…「社長、でもウオツカは結構強いお酒ですし、マフィンに入れるとなると…少し危ないのでは？ 特にお子さんが手に取るかもしれない商品ですし…」

汐…「心配いらない！ アルコールは焼けば飛ぶんだ。風味だけが残って、誰でも楽しめるだろう。むしろ、この大胆さが売りなんだよ！」

社員A…「でも、ウオツカの風味ってかなり特徴的ですよね。普通のマフィンとは全然違う味に…」

汐…「そこがポイントだ！ 普通じゃないからこそ、みんなが話題にする。甘いだけじゃなくて、パンチの効いた味を求める大人たちにピッタリだ！」

（社員たちは困惑した表情のまま、しばらく沈黙が続く）

塩田…（ため息をついて）「うーん、面白い発想ではありますが…本当にこれでうまくいくんでしょうか…？」

---

## 【シーン2】汐製菓 試作室 | 試作の開始

（試作室。パティシエたちが白衣を着て、試作に取り掛かろうとしている。汐と塩田が見守っている）

汐…「さあ、みんな！ウオッカをたっぷり使って、最高の大人マフィンを作るぞ！」

パティシエY…「社長、ウオッカってどのくらい入れればいいんですか？普通のお酒よりもかなり強いですけど…」

汐…「遠慮するな！大胆にいこう。ボトル一本くらい使ってみようじゃないか！味にパンチを出すんだ。」

（パティシエたちは驚いた表情で作業を始める。塩田は顔をしかめながら見守る）

塩田…（小声で）「社長、いくらなんでも一本は多すぎませんか…？マフィンってそんなにお酒入れます？」

汐…（ニヤリとしながら）「大胆に攻めてこそ、新しい世界が開けるんだ。味はインパクトがあつてなんぼだよ。」

（パティシエたちが慎重にウオツカを注ぎ込みながら、マフィンを焼く。オーブンから出てきた試作品は香ばしいが、明らかにアルコールの強い香りが漂っている）

パティシエ田…「社長、焼き上がりましたが…香りがちよつと…強いです。」

塩田：「本当にアルコールは飛んでるんでしょか…？すごい匂いですね。」

汐：（満足そうに）「これだ！この香りが大人たちを魅了する。さあ、試食だ！」

（汐が満面の笑みで試作品を手に取り、大きく一口かじる。しばらく噛んで、味を楽しんでいる様子）

汐：「うん、完璧だ。ウオツカの風味がしっかりと残っていて、これは大人向けの贅沢マフィンだ。」

（塩田も恐る恐る一口食べるが、すぐにむせる）

塩田：「うっ…強い！口の中にお酒が広がって…これ、マフィンですか…？」

パティシエY：「これは…子どもには絶対無理ですね。大人向けとしてもかなり挑戦的かも。」



汐：「挑戦的でいいんだ！普通のマフィンなんてどこにもある。これは特別なマフィンだ！」

---

### 【シーン③】試食イベント（国内編）

（大きな試食イベント会場。国内のバイヤーやメディアが集まっている。汐は壇上に立ち、自信満々で新作を紹介している）

汐：「皆さん、ようこそ！これが我が社の新作、『ウオッカ味マフィン』です。大人のための特別な一品、ぜひ味わってください！」

（バイヤーやメディアがざわざわしながら試食用のマフィンを手取る。塩田は緊張した表情で見守る）

バイヤーA：「ウオッカ味…？初めて聞いたけど、まあ試してみるか。」

（バイヤーがマフィンを一口かじる。すると、瞬間的にむせて驚いた顔をする）

バイヤーA：「うっ、これは…強いな！確かにウオツカの味がするけど、こんなに強いとは思わなかった。」

バイヤーB：「これはマフィンというより、ほとんどお酒だよ。ちよつと飲みすぎた気分になるな…」

（他のバイヤーたちも同様に驚いた表情を見せるが、汐は自信満々）

汐：「どうだ！これが大人のマフィンだ！パンチが効いていて、これまでにない味わいだろう？」

バイヤーC：「いや、確かにパンチが効いてるけど、ちよつと…強すぎないですかね？お酒に弱い人は大変そう。」

塩田…（小声で）「社長…反応が微妙かもしれません…」

---

### 【シーン④】試食イベント（海外編）

（続いて、海外のバイヤーたちが参加する試食イベントが行われる。各国のバイヤーたちがそれぞれの国から集まっている）

アメリカバイヤー…「ウオッカ味のマフィン？アメリカではこういうユニークなアイデアはウケるかも！」

フランスバイヤー…「フランスでは繊細な味わいが好まれるけど、これはどんな感じかな？」

中国バイヤー…「中国ではアルコール入りの食品はあまり人気がないけど、試してみよう。」

イタリアバイヤー！「イタリアの伝統的なお菓子とは違うけど、新しい挑戦には興味がある。」

（バイヤーたちが一口食べると、それぞれ異なる反応を見せる）

アメリカバイヤー！「これはパンチがある！でも、アメリカ人はこういう大胆な味が好きだから、ヒットするかも！」

フランスバイヤー！「味は悪くないけど、ウオツカの風味が少し強すぎるかな。もう少し繊細な味わいが欲しいかも。」

中国バイヤー！「うーん、ちょっと独特すぎて、中国市場では難しいかもしれない。」

イタリアバイヤー！「これはかなり冒険的だ。でも、新しい体験としては面白いかもしれない。」

（塩田は不安そうに汐を見つめるが、汐はただ自信満々）

---

## 【シーン5】汐製菓 社長室 - 返品の上

（試食イベントが終わり、社長室に戻った汐と塩田。塩田が机に大量の返品を抱えて入ってくる）

塩田…「社長…国内外から大量の返品が届きました。」

汐…「返品？なんでだ！？ウオツカ味が大人たちにウケないはずがない！」

塩田…「アルコール規制や味の強さが問題みたいです。特に海外では、食品にお酒を入れるのは敬遠される傾向が強くて…」

汐…（しばし沈黙）「…なるほど、ウオツカはまだ早かったか。」

## 【シーン9】逆転の発想

（汐は突然、立ち上がり、目を輝かせる）

汐…「そうだ！ウオツカがダメなら、次はノンアルコールだ！」

塩田…「ノンアルコール？え…？」

汐…「次は『お茶味マフィン』だ！健康志向の大人も子どもも楽しめる商品にするんだ！」

塩田…（少し笑って）「また、極端に振りましたね…でも、今度はうまくいくかもしれないね。」

## 【シーン10】成功の兆し

（「お茶味マフィン」が国内外で大ヒットし、会社は忙しさを増す。社員たちは大忙しで働いている）

塩田…（微笑みながら）「やっと安定しましたね、社長。」

汐…「成功は冒険の先にある。次の挑戦も楽しみな！」

（塩田は次なる挑戦に備え、微笑んで頷く）

---

終わり